

ご近所のお医者さん

461

川崎こどもクリニック院長 **川崎康寛さん** 貝塚市

はしかワクチン

今年3月下旬以降、沖縄県で渡航者から麻疹(はしか)の感染が広がり、さらに福岡県や愛知県などにも飛び火してニュースになりました。予防措置として最優先されるのは、はしかワクチン(あるいは麻疹との混合ワクチンであるMRワクチン)の接種です。

本人のみ守るにあらざ

接種することで、接種していない人も守られる好例で

MRワクチンは、予防接種法に規定された定期接種として、現在は1歳で1回目、小学校入学前の1年間に2回目の接種を受けることになっています。救済的な



性能も低くなります。制度が整備されていないなかった時期に幼少期を過ごされた世代の方や、受け忘れていた方、何となく敬遠して受けなかった方など、2回接種していなければ、積極的に接種することも考えていただきたいところです。

予防接種を受けた人は当然のことながら、はしかから守られます。さらに、接種する人が増えれば本人が守られる

だけでなく、国内のはしか流行をなくすことができます。そして、流行をなくせば、アレルギーやその他さまざまな病気で治療しているためにワクチンを接種できない人や、ワクチンの接種対象とならない乳児をも守れることとなります。重症化しやすく、後遺症も残りやすい乳児のはしかは、予防接種率の向上により激減しました。周囲が接種することで、接種していない人も守られる好例です。

「国家防衛」と言えば大げさです。「人助け」と言えば何か大変そうです。でも、自分の身を守るためのワクチン接種だったはずが、ひいては人助けになり、国家防衛になっているのです。ワクチン接種を済ませた後、ちょっと満足げにほほ笑んで、ちょっと誇らしげに胸を張ってみませんか。

(府医師会広報委員会副委員長)